

今日のトピック 最近の指標から見るインド経済（2016年5月）

景気は堅調、物価はモンスーンに注目

ポイント1 生産は前月比プラスで推移

景況感も50台を維持

- 16年3月の鉱工業生産指数は前年同月比 +0.1%と、2カ月連続でプラスとなりましたが、伸びが鈍化しました。
- 16年4月の製造業の景況感は50.5と前月の52.4から低下しましたが、好不況の境目である50を引き続き上回っています。足元の生産は若干鈍化しましたが、公務員の給与引き上げなどを背景に、内需は堅調に推移すると見られ、鉱工業生産の伸びは緩やかに高まると見込まれます。

ポイント2 物価上昇率は上昇

食品価格の上昇が寄与

- 16年4月の消費者物価指数は前年同月比 +5.4%と3カ月ぶりに上昇しました。食品価格の上昇が要因です。特に野菜は同 +4.8%と前月の同 +0.5%から大幅な上昇となりました。例年よりも気温が高かったことが影響しました。
- 食品価格の動向は今後の物価を左右する重要な要素となりそうです。6-9月はモンスーン期ですが、降雨量が重要なカギを握りそうです。

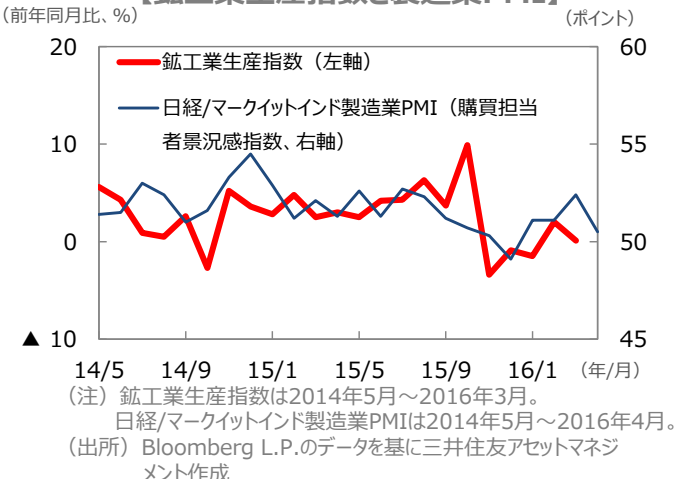
今後の展開

期待できる今年のモンスーン

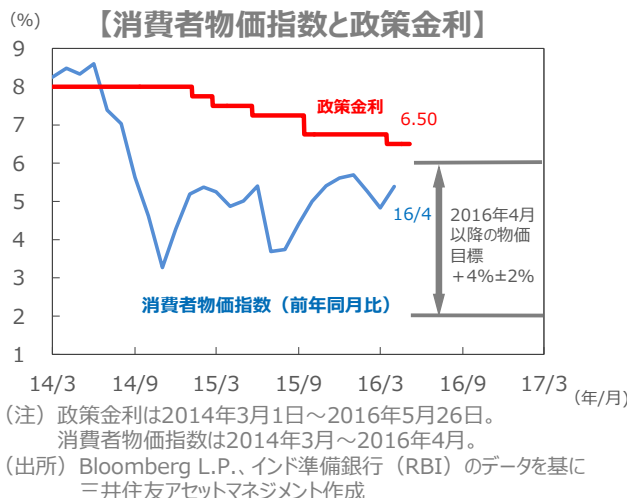
- インドの民間気象予報機関（skymet）は5月24日に、モンスーン期の降雨量予測値を平年比 +9%と前月（同 +5%）より上方修正しました。モンスーン期に十分に雨が降れば、食品価格の上昇を背景とするインフレ率の加速を抑制できそうです。

- 一方、公務員給与の引き上げに伴うインフレ懸念は依然残っています。ただ、インド準備銀行（RBI、中央銀行）は、4月に政策金利を引き下げたばかりであり、マクロ経済・金融情勢を見守るとしています。緩和策の効果を見極めるためにも、政策金利は現行の水準が維持される見通しです。

【鉱工業生産指数と製造業PMI】



【消費者物価指数と政策金利】



ここも チェック!

2016年 4月15日 最近の指標から見るインド経済（2016年4月）
2016年 4月 6日 インドの金融政策（2016年4月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。